



寒川神社を中心に隣町寒川を知ろう

2022. 9. 28

関根 隆記

三度目の正直、コロナウイルスの影響で延び延びになっていた寒川町探訪は、9月28日天気にも恵まれ、34名にご参加いただき催行できました。

前回の87回に引き続いての寒川町ですが、今回は寒川町の名前の由来でもある寒川神社のある宮山地区を中心に歩きました。集合はJR相模線の「宮山駅」。くしくも9月28日は相模線の誕生日に当たり、101年前に茅ヶ崎駅、寒川駅間で砂利を主に運ぶ鉄道が開通しました。四之宮、宮山地区では盛んに砂利が採掘されていましたが、現在ではその面影はありません。

宮山駅が開業するのはずっと後で、1931年に橋本駅まで延伸した後、近隣住民や寒川神社の請願で1931年（昭和6）7月に開業しました。

寒川という地名は、明治22年4月に11ヶ村が合併したとき、寒川神社にちなんで寒川村と名付けたのが最初でした。寒川神社のある辺りは宮山村でした。

神社の一の鳥居の南側が「一之宮地区」で且つての一之宮村で、「大山道」、「中原街道」が通っており賑やかでした。寒川神社の門前町でもありました。それに対し鳥居の北側は、参道の両側は昼なお暗き神社の杜だったそうです。参道に付き物の飲食店や土産物店は今も皆無です。徒歩から車に代わりましたが、鬱蒼とした杜を進むうちに神への畏敬の念はますます高揚したことでしょう。

寒川神社の創建は詳らかではありませんが1600年前の雄略期と云われ、平安期の『延喜式』の「神名帳」には2861社が記載され、神名帳に記載された神社は「式内社」と呼ばれました。その内、特に靈験あらたかな神を祀る大社(官・国幣)285社は「名神大社」の称号をもらい、寒川神社もその一社です。相模国には式内社は13社しかありませんでした。いずれも1100年以上の歴史のある格式の高い神社と言えます。また相模の国「一之宮」でもあります。

明治になって新政府は宗教分離令を出し、ご多分に漏れず寒川神社も別当寺の薬王寺、供僧寺の神照寺、中之坊、三大坊は廃寺となり、各寺の本尊、檀家は供僧寺でただ一寺残った「西善院」に引き継がれました。薬王寺、神照寺の住職は還俗して、神社の神職になりました。現在の寒川社の神職は50名近くおられますが、戦後は宮司さん以下四、五名しかおらず、社運を盛り上げるため「八方除」神事を広めたと、かつての宮司の回顧録にありました。

境内の西側には宮山神社があります。宮山村にあった7社が明治政府の意向で一か所に集められたものです。政府が宗教に深くかかわっているのが分かります。寒川社の東側には曹洞宗の興全寺があり、高座豚の慰霊碑があります。横浜に居留地ができたおかげで、条件の揃った高座郡で養豚が始まりました。江戸時代から田畑中心の村に新しい産業が増えました。

産業道路を渡ったところに、体育館と防災広場を兼ねた中央公園ができました。広場の築山からは近くに寒川社、二の鳥居越しに大山、晴れた日には富士山も望め、桜の季節には花見客で賑わいます。公園の南側には町役場、図書館もあり、この辺りまで宮山地区になります。公園を南東に進み、且つては家康も鷹狩等で頻繁に使った中原街道を渡ると岡田地区の安楽寺に出ます。この寺は元、寒川社の別当寺とも云われ、境内には5世紀頃の古墳（帆立貝型）大神（応神）塚があり、「おおじん塚」と呼ばれています。被葬者は地方豪族と云われています。

宮山地区は江戸時代から続く田園地帯でしたが、産業道路が地域内を通過し、だんだんと宅地化してきました。神社の杜と周辺の田畑がこのまま残ってもらいたいというのは勝手な願いでしょうか。是非お出かけください。



寒川神社